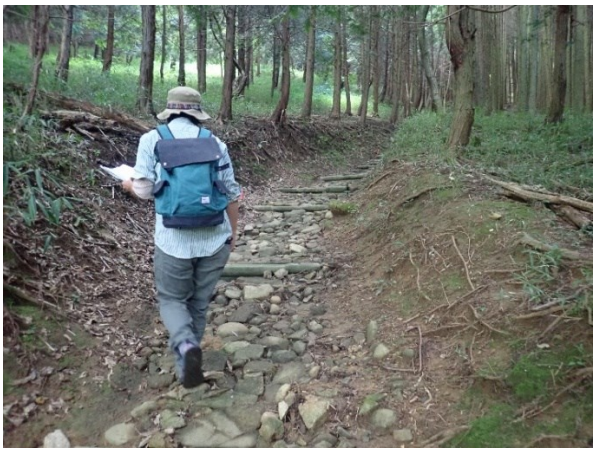
大自然とお友達体験講座 2023　第５回講座レポート

第５回目の講座は、9 月 17 日（日）に大阪府最北端にある能勢町で開催しました。
この日の受講生は 11 名。
現地にバスが到着後、今回ご協力頂いた「能勢みどりすとクラブ」の活動拠点の母屋まで坂道を 20 分ほど歩きました。9 月後半というのに最高気温は 33℃の予報で、母屋に到着して汗のついたリュックサックを降ろすと、ナミヒカゲが汗を吸いにやってきました。ヒカゲチョウの仲間は、翅の裏に目玉模様があるのが特徴です。

少し休憩したのち、「能勢みどりすとクラブ」の上野さんより、クラブ設立の経緯や三草山の自然や保全についての説明と、スズメバチなどの諸注意がありました。
午前中はまず三草山の自然を知る為に山を登って視察しました。

上野さんが指を指している先には栗の木が。
これは第 2 回の講座の歌垣にもあった銀寄栗だそうで、大きな実をつけていました。

左の写真は、4 年前は豪雨で川と化しましたが、補修された山道です。
ボランティアの方々が少しずつ横木を敷き、石を埋め込み叩き、整備されたそうです。
登っていくとゼフィルスの森に到着しました（写真右）。
ゼフィルスとは、シジミチョウの仲間の世界共通の学名で、全国に 25 種類いるゼフィルスのうちこの森には 10 種類が生息しているそうです。



更に登ると、行燈岩のある眺望のいい丘の上に出ました。奥のほうには大阪平野が見渡せます。

受講生たちは歩きながら話を聞いたりして、このゼフィルスの森での植生の管理方法を目で見て学びます。背の高いササをゼブラ刈りと呼ばれる高さを変えて縞模様に刈っていく方法で、その間に生えるスミレなどの成長を促し、それを食草とするチョウ類と、ササを食草とするチョウ類とがうまくバランスを取りながら生物多様性を保全していくことを知りました（写真左）。
右の写真は、国蝶オオムラサキなどの食樹であるエノキを植え、シカに葉を食べられないようネットを張っている区域の様子です。

これは最近更新された看板です。こういった企業さんの力も環境保全には重要なものとなっています。

沢山の種類のキノコも見つけました。
左の写真はヒラタケ系です。右の写真は・・・？

ヤマカガシの幼体です。大きくなるにつれ、黒い色が無くなりオレンジ色が目立つ色に変わります。

クヌギの切り株の上に置かれていた子ジカの頭骨に受講生たちは興味津々でした。
保護ネットに引っ掛かってしまったそうです。

その他、様々な生きものがこの周辺で見られましたので以下に挙げておきます。

左：カナヘビ　　中央：クロハナムグリ　　右：タマムシ

左の写真は一見ブドウのようですが、ヨウシュヤマゴボウという、全体にわたって毒がある北アメリカ原産の外来種。

右の写真はこちらも北アメリカ原産のダンドボロギクという外来種で若い葉と茎は食用にもなるとのこと。風で物凄い数の綿毛が飛散中で、受講生たちを驚かせました。

母屋に戻って昼食休憩をとった後、午後からの活動地の田んぼに移動しました。
その途中、ナンバンギセルという植物を発見（写真左）。
イネ科の単子葉植物（イネ、ススキ、サトウキビなど）の根に寄生して成長する珍しい植物です。

今回使用する田んぼです。
上野さんが鎌の使い方などをレクチャーしています。

早速刈り取ります。
ボランティアさんが見本を見せてくれたので、その通りの方法で作業していきます。

青と白と緑のコントラストが最高ですね！
人数が多いので刈り取りも早いです。

束ね方を教えて頂いている様子です。

畔に沢山、束を並べている様子です。

皆で協力して「稲架掛け（はさがけ）」を竹と木の枝で作ります。

稲の束のかけ方を教わっている様子です。

皆で一斉に作業していきます。

今回は稲の持ち帰りができました。
滅多に手にすることのないものなので、受講生たちも喜んでいました。

上の写真は、作業が終わった風景。1 時間前の写真（下）と比較して手前の稲が無くなったのが分かります。人数が多いと早いですね！

母屋に戻り、全員で記念撮影。
稲を片手に、ハイ、ポーズ☆

受講生に呼ばれたので、何事かとズボンの股間付近を覗くと、、、いました。
マダニです。
かなり大きく、8～9 ㎜程度あったと思います。
シカとイノシシとマダニとオオセンチコガネ（いわゆるフンコロガシ）はセットですねと、上野さんも話をしていました。
野生動物の多い地区は、それに依存する昆虫も沢山生息していますので、こういったマダニにも注意が必要です。

いつものふり返りの様子。
皆で今日あったことの感想などを共有しました。

ご協力頂いた皆さんにお礼を言ったあと、公民館に移動して着替えを終え、活動地を後にしました。
その後バスで地元の特産品の置いてある道の駅に立ち寄りました。
閉店間際だったので、野菜などは殆ど売り切れていましたが、地酒などもあり受講生たちは思い思いに購入していました。
写真は能勢の菊炭が販売されている様子です。
その昔、お殿様への献上品として納められていたそうで、その見た目が菊の花のように美しいことから、茶席に使われていたようです。
今はその文化は衰退してしまい、木の利用がされなくなって能勢の各地方で所有者の分からない放棄林が問題になっているようです。

アンケートでは、受講生全員から最高評価の「満足した」と回答して頂けました。
また、「能勢みどりすとクラブ」の講演内容も全員に「分かりやすかった」と回答して頂けました。
記述内容例としては以下のようなものがありました。

・里山を保全するということの意義、手入れせずに放置すると自然に返るのではなく外来種を含めて「健全」な多様性が失われるということ、ダンドボロギクの「わたげ」の乱舞を見ながらどう自然に働きかけるのがいいのか考えさせられました。「生物多様性」の大切さとは何だろうかとも考えてみましたが、答は浮かびませんでした。

・柵をしないと食害が発生してしまうことが難しい問題だと思った。種の単一化を抑制するためには人の活動が大事だと感じた。

・昔から能勢には来たことがありましたが、三草山は今日の講座で初めて知り、今日初めて来ました。ゼフィルスやたくさんの昆虫、植物、きのこなどの生息する大阪府の山・里の存在はすばらしいです！その保全に力を注いでおられる「みどりすとくらぶ」の皆さんに敬意を払い、今日は色々とお世話・ご指導いただき、ありがとうございました。次は、6～7 月に来てみたいです！

・自然豊かにするには、自然をそのままにするだけでなく、人の力が入るからこそ守ることができる自然もあることが分かり良かった。

・稲かりの体験が新鮮でおもしろかった。機械が入れない田は今回のように手で収穫する必要があるので苦労があると思った。

以上のような回答が寄せられ、外来種対策や、獣害対策の必要な里山の環境保全を知ることができたようでした。特に稲刈りは実際に現地に来てやってみたからこそわかる大変さと、逆に楽しさも伝わったと思います。この地で色とりどりの様々な生きものが見られる 6～7 月の来訪を希望する声も出て、次回の企画がスタッフとしても楽しみな講座となりました。